



岐阜市議会議員 和田直也



未来の声に応えるために
BLUE - SKY REPORT

NAOYA WADA

Vol.45

AUGUST 2017 - 夏号

きちんと市政&議会報告 (045号)

岐阜市議会議員 和田直也のきちんと市政&議会報告会

税の使われ方と岐阜市の未来 cafe♪

参加は無料です。どなたでも気軽にご参加ください。
市役所へのご意見・ご要望を受け付けます。(お茶菓子を準備してお待ちしています)

- 会場1 8月12日(土) 10:30-11:30
みんなの森ぎふメディアコスモス
- 会場2 8月19日(土) 10:00-11:00
徹明公民館(旧徹明小学校内)
- 会場3 8月20日(日) 10:00-11:00
島公民館(島小学校内)
- 会場4 8月25日(金) 18:30-19:30
みんなの森ぎふメディアコスモス
- 会場5 8月26日(土) 10:00-11:00
本荘公民館(本荘小学校内)
- 会場6 8月27日(日) 10:00-11:00
木之本公民館(徹明さくら小学校内)

税の使われ方と岐阜市の未来についてお話しします。今年度一般会計当初予算は1,549億5,000万円、これを市民約40万人で割り算すると一人あたり38万円です。このうち40%が生活福祉に、10%が土木管理費に、同様に10%が教育費に充てられています…。こうした毎年の予算は5年毎に更新される「総合計画」に沿いながら、市長マニフェストや議会各会派の要望、市民の皆様からのご意見ご要望に照らし合わせて編成されます。ということで左記日程ではカフェを楽しみながら岐阜市の未来を話し合えたらと思っています。皆様のご参加をお待ちしています!

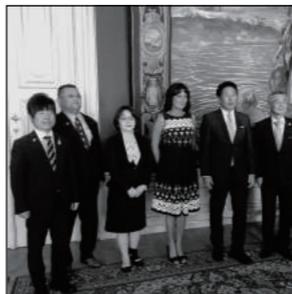
余談…先の資料にはスターバックスだけなぜか固有名詞で記載されています。概ね人口17万5千人、27万5千人規模で1店舗との記述です。スタバは、岐阜市内の郊外ロードサイドに2店舗と都心部に2店舗の計4店舗ですから人口規模以上の出店がみられます。国交省に「どうしてスタバだけ固有名詞なんですか?」と質問したら「グローバルスタンダードだからでしょうかね…」との回答でした☆



◆東京五輪ホストタウンを推進

議会で議員派遣の議決を頂き、市長、教育長、副議長を筆頭に中欧のスロバキアを訪問。同国のライチャーク外相(次期国連総会議長)がかつて駐日大使を務めた折

同外相の地元で首都ブラチスラバ市の中心の丘の上に聳えるブラチスラバ城とドナウ川の風景が岐阜市の金華山に響える岐阜城と長良川の風景に重なる点があること、そうした会話や20数年來の縁が野田聖子衆議との間で深まったことが契機となり、岐阜市が東京五輪スロバキア選手団のホストタウンに指定されました。今回の訪問で同国五輪委員会と選手代表団を表彰した他、卓球・カヌー・空手の3種目をホストすることで合意。東京五輪を契機に7都市目の姉妹都市も視野に、岐阜市とブラチスラバ市との交流が始動します。



中欧ブラチスラバ市を訪問
東京五輪ホストタウンを機に岐阜市にとって7都市目の友好姉妹都市提携も視野に同市と交流が始まります。



◆早稲田大学との連携へ前進!

論を重ね、数年来のご縁で企画が続いています。早稲田大学による科学教室が今年度予算「みんなの森ぎふメディアコスモス2周年企画」により開催。今回は「音って?音楽って?楽器を作ってみよう!」をテーマに小

学生約60名が集い、橋本周司副総長・理工学術院教授と助手院生TAの皆さんがWSを指導しました。さて、早稲田大学と岐阜市のコラボ企画のご縁も事前調整から数えれば既に7年近く続いています。市長、教育長もそろそろ次のステップに繋がればと言及していますので、この先は岐阜市が掲げる教育立市の具体策に反映できればと期待しています。例えば、旧徹明小跡地活用の一環として素案に挙がるキャリアセンターの重要なパートナーとしての可能性も考えられます。今後の議会でぜひ提案したいと考えています。



早稲田大と岐阜市がコラボ
みんなの森ぎふメディアコスモス2周年記念事業で早大の科学教室を開催!橋本副総長がPepper講座視察。



◆アーティストが息づく岐阜市へ

場いっぱいのお客様で開かれたパイオリン奏者・波多野有紀(木之本小・本荘中OB)さんの演奏会に出席しました。ところで、国土交通

省の都市圏参考資料にはサービス施設の立地する確率が50%~80%となる自治体人口規模一覧表が公表されています。例えば郵便局は概ね人口5百人規模に1つ、喫茶店は人口2千5百人~7千5百人規模に1店舗、ハンバーガーショップは人口2万7千5百人~4万7千5百人規模に1店舗、百貨店は人口27万5千人~37万5千人規模に1店舗等です。さて、地元で活躍中の音楽家・波多野有紀さんの演奏会。波多野さんは、かつて梶原知事時代の「夢おこし県政」による「岐阜発の芸術文化振興策」の一環で、県がコーディネートした留学支援制度によりハンガリーのリスト音楽院に学び、現在は音



芸術活動で生活できる都市
多様な価値観を世に生み出すアーティストが本業の芸術活動で生活できる岐阜市を目指して研究を進めます。